

# 代表者会議【当日資料２－５】

## 茅ヶ崎市自立支援協議会報告書

標 題	令和６年度第４回 医療的ケア児等への支援検討プロジェクト
日 時	令和７年１月２９日（水）１４時００分～１５時４０分
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎５階 特別会議室
出席者	<p> <b>■</b> 茅ヶ崎市相談支援事業所連絡会 生活相談室とれいん 榎園 貴子  <b>■</b> 神奈川県立茅ヶ崎支援学校 白井 和子  <b>■</b> 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 遊びりパーク Lino' a 茅ヶ崎 大郷 和也  <b>■</b> 茅ヶ崎市・寒川町障害児通所事業所連絡会 ムーブメントリラ菰園 大鷲 敬  <b>■</b> 茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会 マザー湘南 訪問看護そよかぜ 水野 美奈子  <b>■</b> mana の会 斉藤 美由紀  <b>■</b> mana の会 小山 陽子  <input type="checkbox"/> 医療的ケア児等コーディネーター 療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田 純子  <b>■</b> 医療的ケア児等コーディネーター ちがさきの木魂 安田 のり子  <b>■</b> 社会福祉法人翔の会 児童発達支援センター うーたん 日高 義史  <b>■</b> 茅ヶ崎市教育委員会教育総務部学校教育指導課 大坪 督  <b>■</b> 茅ヶ崎市こども育成部保育課 松尾 岳彦  <b>■</b> （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齋藤 祐二  <b>■</b> （オブザーバー）湘南東部圏域ランチ 医療的ケア児等支援事業ぐータッチ 齊藤 優子  <b>■</b> （事務局）医療的ケア児等相談支援センターノア 瀬川 直人  <b>■</b> （事務局）医療的ケア児等相談支援センターノア 田中 治美  <b>■</b> （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 大八木 元  <b>■</b> （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 課長補佐 荒井 優広  <b>■</b> （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 副主幹 大畑 純子  <b>■</b> （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主査 鈴木 敦之  <b>■</b> （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 主任 中村 知里 </p>
<p>司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 荒井課長補佐 書記：障がい福祉課 中村主任</p> <p>1. 前回までの振り返り</p> <p>（１）説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のPJで抽出された課題を３つの課題（社会課題、地域課題、個人課題）に分類した（別紙参照）。</li> <li>・地域課題が多い印象がある。</li> <li>・セルフプラン率が高い（伴走者が少ない）状況を改善すれば、個人課題にある、保護者に情報が入りづらいという状況が改善されることも考えられる。</li> <li>・まずは地域課題から取り組むのが良いと考えている。</li> </ul> <p>（２）質疑応答・追加情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題：医療的ケアを支える人材不足について  医療的ケアを必要とする成人の方の入所施設や短期入所先の少ない現状について、茅ヶ崎市の状況を文字として残しておくことが重要。</li> <li>・（地域課題）セルフプラン率が高い（伴走者が少ない）ことについて  県の事業の中で、計画相談支援100％の地域のヒアリングをしており、伴走感は確かに感じられる。一方で、当事者家族として茅ヶ崎市で生活する中でセルフプラン率が高いからといって伴走者が少ないと感じることもない。伴走者が定まっていないことにより、ありとあらゆる人に相談できることや、当事者家族間で話し合えるというメリットも感じている。計画相談支援100％の地域は当事者家族間でコミュニケーションが中々とれていない様子もみられる（manaと繋がった際に質問等の連絡がよく入る）。そのような現状も文字として残した方が良い。</li> </ul>	

### 2. 次の協議体の検討

#### (1) 協議内容、メンバー構成

##### ア 協議内容として何が考えられるか

- ・課題の解決方法について
- ・協議内容をどうするかの前に、茅ヶ崎の医療的ケア児の当事者から意見をもらうことも並行して行ってはどうか。視野広く、現実的な意見を聞いてみてはどうか。
- ・医療的ケアが必要な状況で退院する場合、病院のワーカーが繋ぎ先を探し、訪問看護や保健師に繋がれるが、更にその先に繋がらない現状があるのではないかと。支援が必要な人の情報を速やかに把握し、どのような支援が必要かを話し合える場が必要である。直接支援が必要な人について方向付けしていく場が必要であり、プロジェクトとは別にこのような場が必要と考える。
- ・社会課題において人材不足が挙げられている。制度があっても担う場所がなく、人材不足を感じている。研修会や同行訪問をする等して人材育成まで見据えていけると良い。
- ・在宅に移行する際に何をしていく必要があるかをフロー化して共通認識できればよい。フロー化することができれば、支援が漏れなく広がっていくイメージがつく。

##### イ メンバー構成

- ・退院後に支援をする保健師から意見がほしい。
- ・医療的ケアを必要とする方に対応可能な人材を増やすという内容であれば、小児対応未経験の訪問看護ステーションや在宅診療医に入ってもらいたい。
- ・制度は整備されつつあり、人材を養っていく段階にある。医療的ケア児に直接対応する保育士や学校の教員等、現場の担当者に代表に入ってもらうのはどうか。
- 学校教育指導課として、教員がこのような場に参加することについてどのように考えるか。
- 学校現場で医療的ケアが必要な場合は主に学校看護助員が支援するが、担任や養護教諭が医療的ケアに不安感を抱くことはあるため、就学前にどのような経過をたどるのか等の情報を知るには良い機会となる。
- 学校看護助員や養護教諭は、公立学校であれば横の繋がりもあるが、そうでない学校もある。孤立化しないために参加してもらうのも良いのではないかと。
- ・往診医が増えている現状がある。小児科医師の見解も欲しい。

#### (2) 協議体イメージ図の共有

##### ア 部会へ移行Ver

- ・現在は茅ヶ崎市自立支援協議会の中でプロジェクトとして実施しているが、プロジェクトから部会に移行する。
- ・現在のメンバーが中心となるが、メンバーは再度考えていく。
- ・事務局はノアが担う。
- ・コーディネーターは、コーディネーター連絡会の代表者として参加する。
- ・自立支援協議会とは
- 支援者の代表者が集まり、市の障がい福祉の地域課題等について定期的に話し合う協議体のこと。位置づけとしては、話し合いの場としている。権限をもって制度をつくるというよりも、課題について話し合い、解決の糸口を見つけ出すことや、意識しながら活動することができるようにする場である。

現在のプロジェクトは、短期集中的に話し合う場である。今後部会に移行した場合、代表者会議への報告が必要となる。また、計画立てて実施していく必要性も生じる。成果物の発表をしていることもあり、多くの人に知ってもらう機会にはなる。

##### イ 連絡会拡大連携会議Ver

- ・プロジェクトは終了となる。
- ・コーディネーターが連絡会を定期的に行いながら、広い意見が必要となった際に拡大連携会議を実施する。
- ・必要時、内容に応じたメンバーを招集する。
- ・開催のタイミング等はコーディネーター連絡会で決める
- ・事務局はノアが担う。

##### ウ 参考情報

- ・平塚市は、継続的な協議の場は設けていない。当事者の集まり(座談会)を定期的に行い、その中で挙げてきた要望を市が検討している。また、自立支援協議会のこども部会の中で医療的ケア児の分科会を実施しており、関係者や当事者が情報共有する場となっている。

## 代表者会議【当日資料２－５】

・藤沢市は、コーディネーターや教育機関等が集まった協議体はまだできていない。  
次の3月に実施する会議には、子ども家庭課、中央児童相談所、母子保健担当、障がい者支援課、ふじさわ基幹相談支援センターえぼめいく(オブザーバー)が参加する予定。

圏域センターランチ会議には、県や市町の保健師を呼んでいる。

・市町の自立支援協議会は、市町の支援体制整備のためにある。障がい種別に専門的に話し合う場ではない。藤沢も元々は部会で実施していたが、別で実施することとなった経緯がある。

・提言する先がないと解決には繋がらない。県の医療的ケア児支援センターに繋げるならば、市から圏域ランチ会議に挙げていく手順がある。

・圏域ナビゲーションセンターは、ネットワーク形成を目的としている。

### エ 質問・意見

・庁内連絡会議はどの課が参加しており、年何回開催しているのか。

→障がい福祉課、こども育成相談課、保育課、地域保健課、保健予防課、茅ヶ崎市立病院患者支援センター、学校教育指導課が参加している。

開催頻度は縛りがなく、必要に応じて実施している。令和6年3月に初めて実施し、令和6年10月頭にも実施した。令和7年3月にも実施予定。

・話し合いを積み上げていくことが大事である。ポイントポイントで話し合うと積み上げられない。部会において1～2年単位で話し合いを積み上げ、変化を起こせるようにしていかなければならないのではないかな。

・部会は、ある程度の期間で閉じられるものである。一方で当事者として課題は常にある。このことから、部会として行わない方が良いのではないかな。

・庁内連絡会を拡大させたものとして実施していくのが良い。

・医療的ケア児者や重症心身障害児者は、福祉だけでは支えきれない特殊性がある。市が運営する会議で継続的に取り扱ってほしい。

・1番最初は部会がよいと考えた。行政・支援者(事業者)・当事者の三位一体で話し合えることが大事。

・連絡会拡大連携会議については、そもそもコーディネーター連絡会で何を話し合っているのか不明なため、知っている人で検討してほしい。

・庁内連絡会の際に、当事者家族の視点も必要となった場合には呼んでいただきたい。

・平塚の座談会は当事者主体として、その場に関係者が参加する。茅ヶ崎でも同様の会を実施してほしいということであれば対応が可能である。茅ヶ崎市のことを考えると、行政・支援者(事業者)・当事者で話し合える方がよい。

・解決するために提言していき、施策に繋げていくのであれば、部会の他で検討をする場が必要。検討した上で、部会に挙げる必要がある。

・支援者同士で課題共有できる場を継続できたら良い。課題解決に向けた場とは別に、支援者同士で繋がる場もできたら良い。

### 3. 講評

#### (1) ぐータッチ 齊藤 優子さん

・茅ヶ崎で起きている課題の様子がわかった。課題の集約を次に活かしていけるとよい。

・具体的にどれぐらいの人数が困っているのか、どんなデータをとれば発展できるのか、具体的事例をもとに課題を分類しながら、誰に共通して言えるのか、出た課題をどこに繋げていけるのかを話せるとよい。

#### (2) ぐータッチ 齋藤 祐二さん

・庁内連絡会が行われていることについて評価する。障がい福祉課発信で庁内で連携しようという動きは重要である。異業種同士では壁がある。障がい福祉課が中心となって風通しの良い環境をつくってほしい。